

「24時間以内に放射線レポートが
作成された件数の割合」
(第2報)

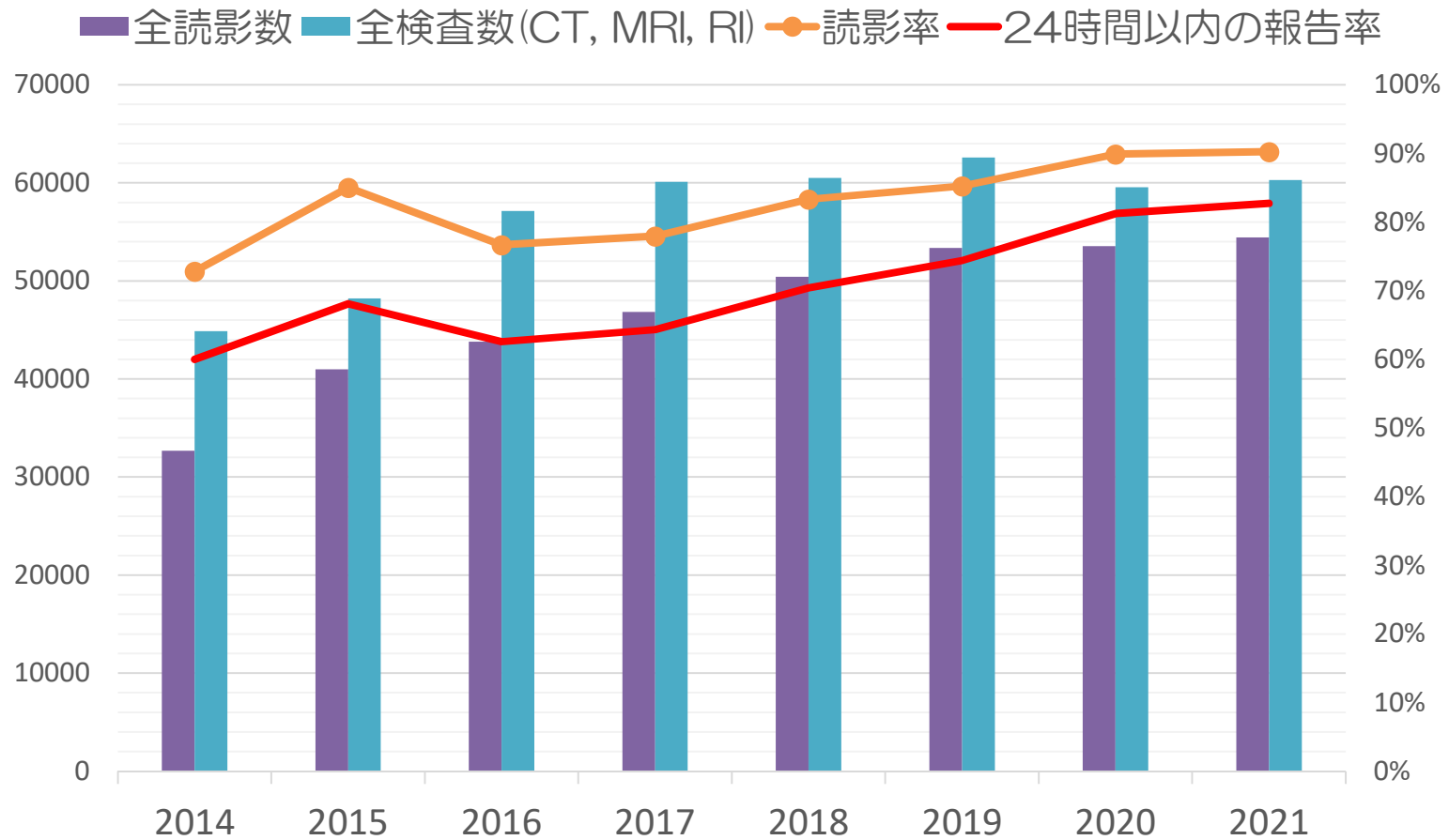
放射線診断科

AGMC-QI22003

背景

- 当院では膨大な数の放射線検査が行われており、CTやMRI、核医学検査などでは放射線レポートが作成されている。
- 放射線レポートを有効に利用してもらうためには、タイムリーに読影することが重要である。
- 放射線レポートが適切なタイミングで読影されているかの確認のため、24時間以内に放射線レポートが作成されている割合 (検査後**24時間以内**の読影率) を算出し、開院以来の当院における数字と比較した。

放射線検査数および読影数・読影率の推移



解説

2021年度の24時間以内の報告率は83%

- 前回提示の2019年度 74%、2020年度 81%
- 前回比較した聖路加国際病院は54%(2017年度)だが、そもそも聖路加の放射線科は日本では珍しい欧米型の放射線科(スタッフ数 26名)であり、比較が難しい。
- その後聖路加のデータが更新されておらず、比較ができない。

コロナ下でも放射線検査数の減少は軽微

- 2020年度 -4.9% , 2021年度 -3.7% (2019年度比)
- 今後は再び放射線検査が増加する可能性

読影数は、旧病院以降一貫して増加

- 2020年度 +0.4% , 2021年度 +2.1% (2019年度比)

読影率および24時間以内の報告率も2016年以降毎年上昇

まとめ

緊急性・重要度の高い検査から優先的にレポートを作成し、当院の目標とする「高度専門・救急医療」に貢献することを目指している

2022年5月より画像診断管理加算2の取得を開始

- ・ 病院収益に貢献

2023年2月末より北棟・画像診断センター稼働開始

- ・ 読影に集中することで、診断の質を向上
- ・ コンサルテーション・カンファレンス機能の強化
- ・ 研修医・専攻医の教育

数字はほぼ上限に達しており、必要なマンパワーを確保しながら、質の高い画像診断のタイムリーな提供を目指す